

155. 滋賀里遺跡出土の 将棋駒について

1. はじめに

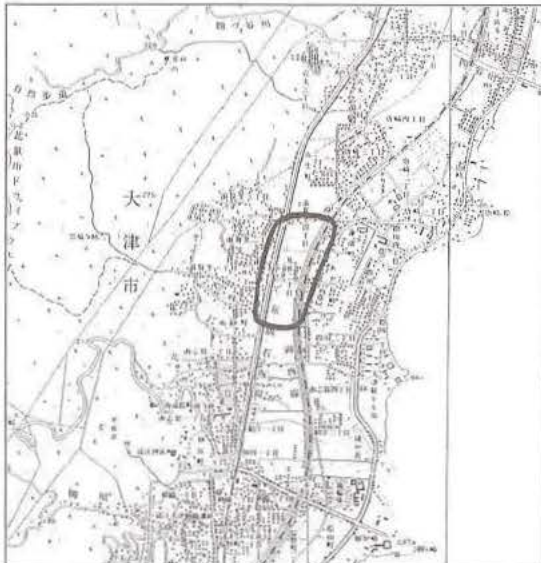
滋賀里遺跡は大津市滋賀里4丁目～見世2丁目にかけて広がる、縄文時代から中世の墓跡を中心とした遺跡である。

比叡山系から流出する四ッ谷川、際川、柳川などの中小河川に運ばれた土砂の堆積によって形成された扇状地上に立地するこの地は、かつて大津宮跡に比定されるなど、湖西の重要な地域として現在に至っている^①。この地域は、湖西線関係遺跡の発掘調査を始めとして、宅地造成、道路敷設などを原因とする数々の調査が行われてきた^②。

今回発表する将棋駒は、湖西線が敷設されるに際しての事前調査によって出土したもので、調査期間は昭和46年3月～昭和47年3月であった^③。

2. 周辺の遺跡

湖西南部は古来、政治・経済・交通上の重要な地域であった。南に大津宮の正殿跡や南門跡が検出された錦織遺跡^④を始めとして、圍城寺遺跡、南滋賀廃寺跡



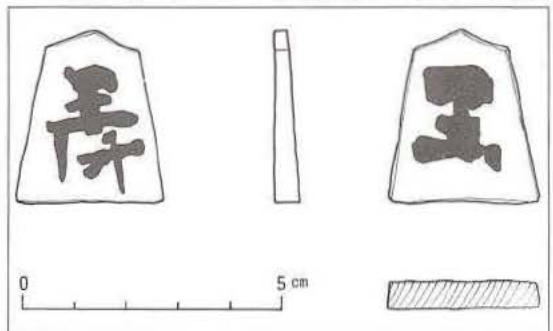
遺跡位置図 1:50,000

などの白鳳寺院や平安時代の工房跡が検出された榎木原瓦窯、北には穴太廃寺跡、伝崇福寺跡などの白鳳寺院が建立されていた。また、この地に都を遷す経済的背景として、福王子古墳群や穴太野添古墳群など数多くの群集墳を築造し得た渡来系氏族の経済力は欠かせないものであろう。

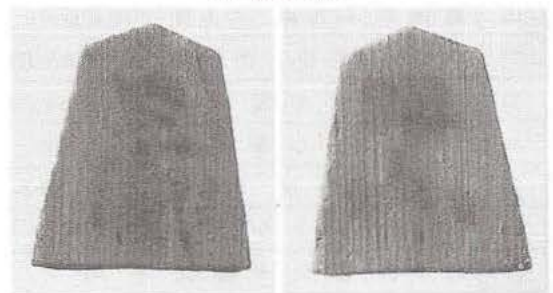
このように、滋賀里遺跡の縄文時代墓跡に始まり、榎木原遺跡や梵鐘鋳造遺構が検出された長尾遺跡、また大伴遺跡や錦織遺跡など平安時代までは著名な遺跡が存在している。しかし、鎌倉時代以後には延暦寺関係の寺院跡や宇佐山城跡が若干認められる程度である。

3. 将棋駒の概要

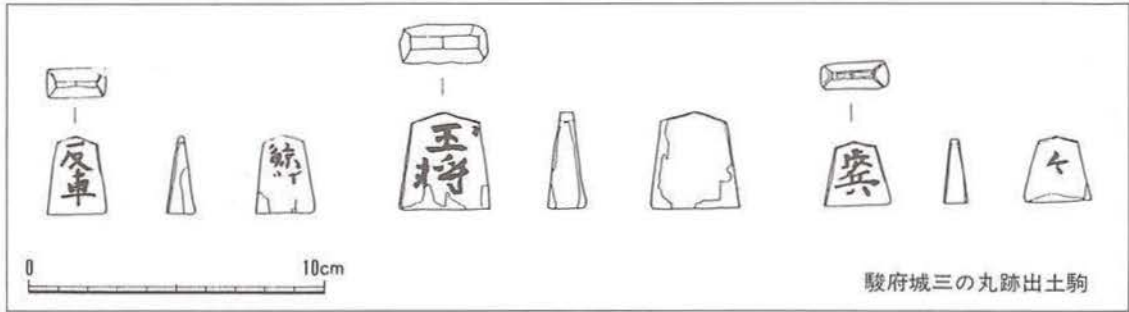
滋賀里遺跡出土の将棋駒は、溝跡より13世紀中頃の土師器と共伴して発見された^⑤。駒の大きさは、縦3.3cm、幅は頭部で1.8cm、底部(駒尻)で2.9cm、厚さは頭部で0.25cm、底部で0.5cmを測るものである。図のように、底部幅に対して頭部幅が極端に小さくなるいわゆる駒形を呈しており、厚みも頭部へ向かうほど薄くなっている。この形は、厚みを除いて現在使われている駒に似かよっている^⑥。表面中央に大きく「王将」、



出土駒実測図



出土駒(原付)



番号	出土地	遺跡名	年代	個数	備考
1	兵庫県	日高遺跡	1094~95年頃	1	歩兵
2	山形県	酒田城輪遺跡	平安時代後期	1	兵
3	京都府	鳥羽離宮跡第77次	"	2	歩兵
4	兵庫県	玉津田中遺跡	13世紀初頭	1	桂馬
5	神奈川県	今小路周辺遺跡	13世紀前半	1	金將
6	滋賀県	滋賀里遺跡	13世紀中頃以降	1	王將
7	千葉県	千葉地遺跡	13世紀末・14世紀前半	2	
8	京都府	鳥羽離宮跡第59次	鎌倉時代	1	金將
9	韓国	新安沖海底船	1323年頃	2	香車・歩兵
10	神奈川県	鶴岡八幡宮境内	鎌倉時代~南北朝	5	歩兵・鳳凰・奔王
11	京都府	上久世城ノ内遺跡	鎌倉時代末~南北朝	1	酔象
12	"	鳥羽離宮跡第54次	鎌倉時代~安土桃山時代	1	銀將
13	長野県	塩田城跡	16世紀頃	1	角行
14	静岡県	小川城跡	15世紀後半~16世紀前半	3	竜王・盲虎
15	京都府	猪熊殿	1536~47年の間		
16	島根県	新宮党館	1554年以前	1	玉將
17	富山県	弓庄城跡	室町時代末~戦国時代	2	銀將
18	福井県	一乗谷朝倉氏館跡	1567年以前	180以上	王將・玉將・酔象以下現行駒全種類あり
19	兵庫県	御着城跡	1571年以前	1	龍王
20	東京都	葛西城跡	16世紀前半~17世紀前半	2	金將・銀將
21	静岡県	駿府城三の丸跡	16世紀前半~17世紀前半	4	玉將・反車・歩兵
22	京都府	平安京西洞院	16世紀末~17世紀前半	1	角行
23	"	御土居遺跡	1654~75年の間	2	王將・銀將
24	"	妙心寺境内	1674年以前	1	銀
25	大阪府	難波宮跡	江戸時代前半以降	1	王將
26	京都府	隼上り遺跡	江戸時代末	1	角行
27	岩手県	高水寺城跡	不明		

出土駒一覧表

裏面にも中央に大きく「王」と墨書されている。木肌が明るい褐色をしており、字は比較的読みとりやすい。両面ともに欠損部分がなく、遺存状態は非常に良好であった。

4. おわりに

発掘等によって遺跡その他から出土した将棋駒は、本例を加えて27例を数える^⑦。現在、明確に年代のわかる例で日本最古と考えられるものは、兵庫県城崎郡日高町松岡の日高遺跡出土駒である^⑧。相伴した木簡より平安時代後期(1094~1095年)の年代が示されている。これ以降、京都府宇治市菟道東牟上り31の牟上り遺跡^⑨の江戸時代末期とされる陶器製駒に至るまで、13都府県と韓国から出土している。それらは、鎌倉から室町時代を境に変化するようである^⑩。すなわち、鎌倉時代以前のものは、

- (1) 頭部と底部の幅や厚みに差がない。
 - (2) 文字はすべて墨書である。
 - (3) 裏面は一文字の場合、上半分に書かれている。
 - (4) 駒の大きさは、縦3cm前後・底部幅3cm前後・厚さ0.5cm前後の範囲に納まる。
- また、室町時代以後のものは、
- (1) 室町から戦国時代にかけて大形化し、厚さが1cmを越えるものが出てくる。
 - (2) 頭部と底部の幅や厚みの差が広がる。
 - (3) 文字は、墨書以外に漆書や墨書の後彫りを施したものが現れる。
 - (4) 棒線を記し駒の進み方を示したものが現れる。
 - (5) 専門職人の製作したものや、素人の手作りのものが現れる。
 - (6) 陶器の駒が現れる。

以上であるが、これらの特徴と滋賀里遺跡出土例とを比較してみる。

本例の特徴としては、

- (1) 頭部と底部の幅や厚みに大きな差がある。
- (2) 文字は墨書である。
- (3) 裏面は一文字であるが、中央に大きく書かれている。
- (4) 駒の大きさは、縦3cm前後・底部幅3cm前後・厚さ0.5cm前後である。

があげられ、(1)は室町時代以後の特徴を示し、(3)は鎌倉時代以前の特徴に反している。また、(2)と(4)は鎌倉時代以前の特徴を示しているが、室町時代以降も見られるものである。それ以外にも、「王將」の出現は16世紀後半の福井県福井市城戸の内町朝倉氏遺跡出土例^⑪が最古のものであるなど、13世紀中頃以降の駒の可能性が考えられる^⑫。

以上、滋賀里遺跡出土駒は形態・規模などの特徴により、出土遺構の時期より後出する可能性が出てきた。

「王將」の墨書も鎌倉時代以前には例が見られないもので、本例が疑問符つきながら最古例と言えるかも知れない^⑬。

最後に、本例の年代が13世紀中頃であると仮定した場合の、今後における問題点を掲げておく。

- (1) 現行駒とほぼ同形態の駒の初出例。
- (2) 「王將」の最古例。

(三宅 弘)

注

- ① 木村一郎『大津皇宮御跡尊重保存資料』明治34年
これ以降、喜田貞吉らにより大津宮滋賀里説が展開されたが、昭和49年滋賀県教育委員会の発掘調査によって大津宮は錦織の地に決定された。
林 博通 『さざなみの都大津京』(サンブライト出版 1978)
林 博通 『大津京』(考古学ライブラリー27 ニューサイエンス社 1984)
- ② 田辺昭三ほか『湖西線関係遺跡調査報告書』(滋賀県教育委員会 1973)
大津市教育委員会『滋賀里・穴太地区遺跡群発掘調査報告書』II(大津市埋蔵文化財調査報告書(5) 1982)
- ③ 注①田辺報告に同じ
- ④ 注②林論文に同じ
- ⑤ 財団法人滋賀県文化財保護協会主任技師 松沢修氏に御教示いただいた。尚、相伴遺物がこの土師器のみであったため、駒の年代は必ずしもこの時期のものであるとは言えないとのことであった。
- ⑥ 現在使われている駒の大きさは、縦3.1cm・頭部幅1.9cm・底部幅2.6cm・厚さは頭部で0.35cm・底部で0.9cmである。
- ⑦ 小泉信吾「駒の出土例とその意義」(『京都府埋蔵文化財論集』第1集一創立五周年記念誌一財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 1987)
小泉信吾「出土駒から見た将棋の発生」(『京都府埋蔵文化財情報』第23号 財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 1987)ここに24例紹介されており、この他に京都市右京区妙心寺金牛院敷地内から1点、静岡県静岡市追手町駿府城三の丸跡から、玉將・反車・歩兵等の駒が4点出土している。
- ⑧ 注⑦小泉論文
小泉信吾「日本最古の『歩兵』」(『将棋世界』第51巻第2号、日本将棋連盟、1987)
- ⑨ 注⑦小泉論文
- ⑩ 以下、注⑦小泉論文の分類を掲げておく。
- ⑪ 福井県教育委員会『特別史跡一乗谷 朝倉氏遺跡発掘調査報告』I(1979) なお、島根県の新宮党館跡で1554年以前と考えられている「玉將」が出

土している。

⑫ 注⑤で述べたように、遺構年代の上限が13世紀中頃に求められるが、駒自体の特徴などそれ以降のものであろうと思われる。

⑬ 「玉將」の最古例は現在、1554年以前と推定される島根県能義郡広瀬町新宮谷、大夫成の新宮堂館跡出土例である。また、裏面の「王」の墨書例については、注⑩朝倉氏遺跡に1例「玉(め)」とされたもの

が知られるのみである。

文献上に「王將」が現れるのは、江戸時代初期以後のことで、増川宏一氏も『將棋』（ものと人間の文化史23 法政大学出版局 1977 148ページ）の中で、「王將」の出現時期について、「いつ頃からそうになったか明確でない」としながらも、江戸時代からはるかに遡る時期には考えておられないようである。



各地出土の將棋駒 (文献注⑦による)